

IV-68

インターネットによる早池峰エコミュージアムの情報発信について

岩手大学 正 員 安藤 昭
 学生員 ○堀米拓郎
 学生員 大泉 剛
 正 員 佐々木栄洋
 正 員 赤谷隆一

1. 研究の背景と目的

エコミュージアムとは、地域住民参加による地域遺産の保全活動を通して地域社会の発展（Community Development）に貢献することを目的に、野外博物館として組織化されたものをいう。エコミュージアムは地域住民のまちづくりへの参加を促せること、大きな資本を必要としないこと、環境保全をベースとすることなどから、地域活性化策として採用する自治体が増えている。

さて、エコミュージアムの立ち上げにあたっては行政と住民の双方を交えた十分な検討が必要となる。さらに、エコミュージアムを観光振興策としてとらえた場合、地域外部への情報の提供および来訪者の意見の反映が不可欠なものとなる。しかしながら、エコミュージアムは地域社会の活性化策として発達してきた。また、地域の生活に密着した博物館であることが理想とされることなどから、観光施策としてのノウハウの蓄積が遅れており、エンターテインメント性に欠ける部分がある。このような背景からエコミュージアムにおける情報提供および来訪者の意見をくみ上げるための手法は確立されていない。

そこで本研究は、エコミュージアムの情報発信および来訪者の意見を集積するための手段として、近年急速に普及が進むインターネットに着目し、岩手県大迫町を対象としたエコミュージアム、早池峰エコミュージアムの情報発信を目的とし、住民の意見を反映させたホームページを地域の住民とともに、構築することを試みたものである。

2. 早池峰エコミュージアムについて

早池峰エコミュージアムは、北上川銀河博物館構想の一角をなすエコミュージアムである。同構想は、北上川流域全域を対象とするエコミュージアムであり、対象領域全体の中心となるコアミュージアムを一関遊水地に設置、その別館であるアネックスを

北上川水系によって結ぶ。アネックスはダムや源流部、河口部、イギリス海岸など北上川流域圏全域に設置する。アネックスの周辺には現地保存される地域遺産のサテライトがあり、アネックスとサテライトはディスカバリートレイルによってつながれる。

早池峰エコミュージアムは早池峰ダムの周辺環境整備の一環として構想されたものであり、岩手県大迫町を対象領域とするエコミュージアムである。平成7年度より早池峰ダム周辺環境整備に関する基礎的調査が開始され、平成9年度からは岩手県早池峰ダム建設事務所および岩手大学都市工学研究室により早池峰エコミュージアム研究会が定期的に開催されている。これまでにエコミュージアムの理念や基本構造の習得をはじめとして、エコミュージアムが地域社会発展に与える効果や、早池峰エコミュージアム計画案の評価に関する調査の結果報告などが行われてきた。

3. 研究の方法

(1) ホームページの作成について

早池峰エコミュージアム（バーチャル）のホームページ作成については、主に html 文書でプログラミングを行った。

ホームページ上の画像は先行研究⁽¹⁾の資料から引用した。また、実際に現地に赴き、デジタルカメラおよびビデオカメラを用いて撮影を行い、それらをホームページ上で公開した。

(2) インターネットについて

今日、わが国のインターネット利用者は財団法人ニューメディア開発協会の調査によると、99年6月末時点で2203万人に達している。また、コンピュータを地域の住民に開放しているような公共機関や、企業のショールーム等で使用できる人々も含めればインターネット利用者は膨大な数にのぼると思われる。

(3) 研究の流れ

研究の流れを図-1に示す。本研究では、エコミュージアムの立ち上げ、管理、運営等は、行政と住民の二重入力方式によって行われることから、早池峰エコミュージアムの情報発信を目的としたホームページ作成にあたり行政と地域住民をメンバーとする早池峰エコミュージアム検討会を設置した。この検討会ではホームページについて検討すると同時に、地域の住民にエコミュージアムの理解と関心を高めってもらうことを目的とした。検討会メンバーは、行政として早池峰ダム建設事務所、大迫町役場職員、地域住民代表としてサテライト候補施設管理・所有者、と岩手大学都市工学研究室スタッフである。また、そこで作成したホームページをインターネット上に立ち上げる。インターネットの特性である双方向性および利用者数の多さに着目し、不特定多数の利用者にバーチャルエコミュージアムを体験してもらい、アンケート調査を実施する。その結果を集計、解析し、早池峰エコミュージアムの課題の抽出を行う。

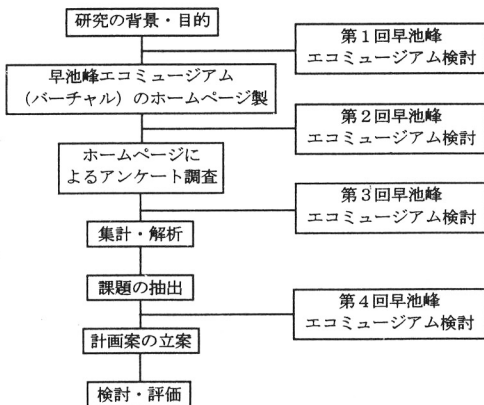


図-1 研究のフローチャート

(4) 製作環境

ホームページ製作に使用した主な機材は表-1に示すとおりである。

表-1 使用した主な機材

ホームページ製作ソフト	Adobe Page Mill 3.0J
デジタルカメラ	FUJIFILM CLPIT-IT DS-30
ビデオカメラ	SONY Handycam DCR-TRV9 NTSC
フロッピーディスクアダプタ	FUJIFILM FLASH PATH FD-A1
スキャナー	Nikon SCANTOUCH

なお、ホームページのアドレスは以下である。

<http://cp.cande.iwate-u.ac.jp/eco>

4. バーチャルエコミュージアムの概要

(1) ホームページの構成

このホームページは実際に早池峰エコミュージアムを立ち上げた際のイメージ像と考え、静止画像や文字だけでなく、音や動画を取り入れ、よりリアルに利用者がバーチャル体験できるように製作した。ムのホームページの内容はエコミュージアム全般に関する説明、早池峰エコミュージアム、アンケート調査の3項目から構成した。

(2) ホームページの内容

エコミュージアム全般に関する説明では、文面や、図等の画像を入れるだけでなく、動きをつけ、エコミュージアムの説明には音声流すようにプログラミングし、エコミュージアムに対する利用者の関心を高めることを試みた。早池峰エコミュージアムは利用者がバーチャル体験できることを念頭に製作し、大迫町にある自然・文化・産業の地域遺産を写真や動きをつけ、紹介をしている。また、当研究室の先行研究⁽¹⁾のデータから、教育・研究を配慮したエコミュージアム、地域遺産の保存を配慮したエコミュージアム、住民の参画を配慮したエコミュージアム、経済発展に配慮したエコミュージアムの4パターンの早池峰エコミュージアムを紹介している。

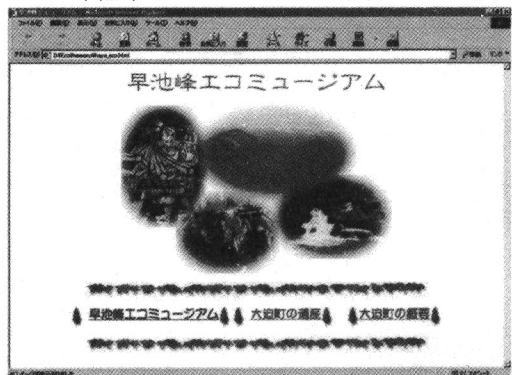


図-2 早池峰エコミュージアムのページ

5. 今後の予定

今後は、インターネット上でのアンケート調査から来訪者の要望など、早池峰エコミュージアムに必要な要素の抽出を行い、基本計画策定の際の参考資料として検討、評価をする予定である。

参考文献

- 1) 西岡 隆男 平成10年度岩手大学 修士論文「早池峰エコミュージアムの効果的な展開手法に関する研究」 1999.3